

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立鴻巣女子高等学校 )

目指す学校像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
--------	------------------------------

重点目標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切にしている指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	「授業5原則」「朝読書」「CLEAN THE TABLE」の実践により、学校全体で学ぶ姿勢は定着してきている。これらの取組をさらに進めるとともに、生徒自身が学ぶ意欲や分かる喜びを実感できる学習指導を推進する必要がある。 普通科では、少人数による授業展開や多彩な選択授業等の形態を十分に活用したり、各教員が持つ学習指導技法を高めて、個に対応したきめ細やかな指導で学力の向上を図る。 専門学科では、授業内容を充実して技術検定1級取得の高い合格率を維持している。今年度も外部講師や県事業を活用して、スペシャリストの育成を図る。	学習意欲向上と普通科、専門学科の充実を実現する。	①自主的に学習環境を整えられるように指導を進める。 ②学年を中心に各分掌が連携して、朝読書の効果的活用を図る。 ③考査期間等下校時刻を徹底して、家庭学習時間を確保する。 ④研修会の実施や授業公開週間等で、教員間の学び合いを充実する。 ⑤県の事業等を活用して様々な指導方法に取り組む。 ⑥各種公開授業を活用して授業力を向上させる。 ⑦生徒の状況に応じた補習指導や個別指導を一層充実させる。	①②学習環境整備や朝読書にしっかり取り組む生徒の割合(85%以上) ③家庭学習時間の増加(昨年度比) ④⑤⑥学力向上と授業改善に関するアンケート調査結果による本年度成果と前年度比較 ⑦補習、個別指導の実施成果 ⑧普通科の検定取得の取組状況 専門学科の家庭に関する技術検定合格率高水準維持	学習意欲の向上に組織的に取り組んだ。 ①「授業5原則」肯定的回答 92% 「CLEAN THE TABLE・ロッカー」 90% ②「朝読書」 91% 「おすすめの一冊コンクール」等、読書啓発活動を実施した。 ③通常日、考査期間とも下校時刻を徹底した家庭学習、通常日1時間以上 28%増加(昨年度比) 考査期間1時間以上 43%増加(昨年度比) ④協調学習、コミュニケーション向上、特別支援等、研修会を6回実施できた。教員間の学び合いに授業見学票を使用した。 ⑤⑥未来学びプロジェクト、ICT 機器の活用等、積極的に取り組むことができた。 ⑦考査前、長期休業中に科目補習を実施、検定は個別指導を充実、家政科学科三冠王29名、保育科1級28名取得	A	学習環境づくりの指針が徹底して、生徒は落ちついて授業に臨んでいる。本校の基礎基本となる事項であり、継続的に指導を続けていく。  家庭学習時間が増加し、自ら学ぼうとする姿勢が向上している。今後は各生徒が教科ごとに目標を持つことが必要である。具体的に設定できるように学校全体で取り組んでいく。  学力向上に加え、生徒理解のための学び合いが必要である。外部との連携を含め、研修会等充実していく。
2	将来、自立した社会人となるように、学年に応じた体系的な進路指導を行っている。引き続きこの取り組みを充実するとともに、社会情勢と本校生徒の実情に合わせた現実的な進路指導を行う必要がある。	外部機関と連携したり、進路の手引きを活用したりして、体系的な進路指導を実現する。	①基礎力診断テスト結果を効果的に活用する。 ②定期的に進路の手引きを使用して自己理解を進める。 ③学年に応じた進路指導のねらいを徹底する。 ④校内個別指導、校外進路説明会等に積極的に参加させ進路決定意識を高める。	①テスト結果の分析と活用 ②進路の手引きの定期的活用 ③④進路の決定意識を高めた生徒の割合(90%以上) ④進路未決定者割合の減少	個々の希望に沿い体系的指導を進めた。 ①生徒状況の把握に利用、学力目標を設定できた。また、クラス経営の資料として活用した。 ②各学年「総合的な学習の時間」で定期的にeポートフォリオとして活用できた。 ③進路行事に積極的に参加82% ④個別指導は充実したが減少に至らず。	B	各生徒の進路希望に寄り添いながら支援していく必要がある。学年ごとに計画的に指導を行うとともに、家庭とも情報交換等、連携を図りながら、進路決定をしていく。
3	学校行事に積極的に参加する生徒が年々増加している。多くの生徒が主体的に参画できるように取り組み、生徒の達成感を向上する。また、部活動の活性化を図る取組を仕組み、生徒の満足感を高める。  社会人としてのマナーや、良好な人間関係を構築できる力を身につけて欲しいという保護者ニーズが高い。基本的な生活習慣を確立する指導のほか、チームワーク行動や自己肯定感を高める取り組みを充実させる必要がある。	学校行事と部活動参加を通して、生徒の達成感を向上する。  基本的な生活習慣の確立と自己肯定感を向上する。	①行事毎に総括を行い、良い部分を大切に工夫、改善を行う。 ②特別活動全般で、生徒参画を意識した粘り強い指導を行う。 ③生徒会予算の見直しと環境整備を継続して、各活動の活性化を図る。  ①荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。 ②社会人としてのマナーを意識したあいさつや言葉遣いを励行する。 ③他者理解を深めるソーシャルスキルトレーニングを外部講師により実施する。 ④SNSトラブルを防止する指導と取組を徹底する。 ⑤個別の教育相談体制の組織化を進める。	①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(90%以上) ②部活動に積極的に参加する生徒の割合(80%以上) ③生徒会行事、部活動の活動成果と各種大会等の実績(昨年度比)  ①②④学校生活に関するアンケート調査結果による本年度成果と前年度比較 ③実施成果の検証 ⑤教育相談に関するアンケート項目の肯定的回答(75%以上)	特別活動の活性化が随所で見られた。 ①学校行事参加肯定的回答 93% ②部活動参加肯定的回答 73% ③適切な予算編成と執行が進み、特別活動を推進する一助となった。 文化祭一般来場者数約2,500名(昨年度比1.3倍) 県大会レベルの出場と実績が、運動部・文化部ともに増加した。 学校生活を向上しようとする生徒が増加 ①「CLEAN THE TABLE・ロッカー」肯定的回答 89%(1学期末)、90%(学年末)と年間で達成できた。 ②「あいさつ」肯定的回答 90% ③2年生で外部講師により実施した。 ④スマホの利用状況を把握、全校・学年集会等で指導を実施した。 ⑤悩みをもつ生徒の情報共有が進んだ。	A	学校行事・部活動・生徒会活動を肯定的に捉え、前向きに参加している様子が見えるが、効率化も含め、更により良い環境づくりを目指す。  基本的な生活習慣の確立を進めるうえで、生徒の自己管理能力を育成する必要がある。来年度は生徒手帳を大判にして、書き込みがし易くなるようにした。活用を促す指導を行っていく。  個別の支援や配慮を必要とする生徒への組織的な対応が望まれる。情報共有の機会増加や支援の充実、外部との連携等、校内体制を構築していく。
4	各種学校との交流や地域催し物への参加等、年間をおして開かれた学校づくりを積極的に行っている。HPの更新や定期的な情報紙の発行等、学校情報の発信を行っているが、本校の特色についてPRが足りない部分が見られる。引き続き信頼に応える取り組みを充実させて地域コミュニティ充実の一翼を担っていく。	地域との連携や情報発信を充実して、信頼される学校づくりを推進する。	①HP更新、文化祭、鴻女通信の発行等、学校の特色を様々な機会にPRする。 ②学校交流、出前授業、学校説明会等、各種学校との連携行事の工夫改善を図る。 ③子育て支援事業の内容改善 ④地域イベント等へ積極的に参加して生徒の活躍の場を充実させる。	①②情報発信機会と学校行事等の来校者の増加 ②学校説明会、体験入学の内容改善による成果 ③④本校主催事業や地域イベント参加等に関するアンケート調査結果や実施成果の検証	地域連携と学校PRに積極的に取り組んだ。 ①HPはスマホ閲覧増加に対応のためレイアウトを変更した。更新と広報活動は例年並みに行った。 ②学校説明会は部活動アトラクション、体験発表等、生徒の出席を増やして実施した。説明会参加者1,182名(昨年度比1.1倍) ③12月、1月実施、内容と募集方法を改善 ④地域ワークショップ・マラソンボランティア新規参加	B	生徒の活躍の場をますます広げ、自己肯定感や自己有用感を持たせたい。現在の取り組み状況を工夫し、外部との連携を深めるなど、学校全体で支援していきたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「CLEAN THE LOCKER」「朝読書」の達成率が90%を超えていることは素晴らしく、誇りに思えること。今後もこの状況を続けていけば、なお一層伸びていくと思う。</p> <p>・人にとって大切な「基本的な生活習慣の確立」の内容が上記の4つの取組すべてに含まれている。この取組の実施率が良いことは非常に望ましいことであり、引き続きこの取り組みに力を入れてほしい。</p> <p>・協調学習の公開授業を参観した。生徒は積極的に参加しており、高く評価できる。成果の検証と工夫を進めてほしい。</p> <p>・「生徒理解」の研修報告があったが、とても大切なこと。今後も続けてほしい。</p>	
<p>・説明を聞いて学校を良くしようという気持ちを感じた。娘の学校生活やPTA活動を通して、一人一人に寄り添い、明るい将来になる指導をするなど、この学校は大変良い学校と感じている。中学生の娘も入学させたい。</p> <p>・学校行事や部活動など充実していた。進路決定でも面倒みて頂き、感謝している。</p>	
<p>・学校側壁の横断幕で、生徒の活躍を知り素晴らしいと感じた。横断幕は、校外の人に活躍状況を知ってもらおうと同時に、生徒のモチベーションも高める。本校では様々な分野での活躍が多いので、なるべく多くの生徒の紹介をしてほしい。</p> <p>・学校行事の充実が伺える。交流を更に進めるために、地域住民もボランティアで上手に巻き込めると良いと感じた。</p> <p>・生徒の話聞く態度がとても良い。社会に出ると傾聴の姿勢が重要になるので今後も一層大切にしたい。</p> <p>・学年ごとの具体的な課題に対して的確に取り組んでいることがよくわかった。</p>	
<p>・地域との交流内容が年々変化・充実して、とても良いことだと感じる。</p> <p>・地域連携や情報発信は非常によくできていて、評価に値する。市の広報等も上手に使い更に広めてほしい。</p> <p>・様々な堅実な取組が、校外に知れ渡ってきている。今後も期待している。</p>	

